

## 会 議 記 録 （ 概 要 ）

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	高松市総合都市交通計画推進協議会 令和7年度第1回交通機能部会
開催日時	令和7年4月14日（月）13時30分～14時30分
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議題	<p>(1) 部会長・副部会長の選任について</p> <p>(2) バタクス定時運行における課題について</p> <p>(3) レンタサイクル事業の見直しに向けた実証事業の実施について</p> <p>(4) その他</p>
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	<p>紀伊委員、新居委員、藤本委員、斎藤委員、木村委員、川崎委員、多田委員、片庭委員、宮野委員、岡委員（代理：中村）、高島委員、三宅委員、大西委員、松田委員</p> <p>（欠席者：古川康造委員、古川和毅委員 2名）</p>
傍聴者	8人（傍聴席：10席を確保）、報道5人
担当課及び連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果
<p>(1) 部会長・副部会長の選任について</p> <p>高松市総合都市交通計画推進協議会条例第7条第3項の規定により、部会長及び部副会長の互選により次のとおり決定した。</p> <p>部会長：紀伊委員 副部会長：片庭委員</p> <p>(2) バタクス定時運行における課題について</p> <p style="padding-left: 40px;">・・・事務局から説明（資料1）</p> <p>(委 員)</p> <p>前回の協議会でも議題になったとおり、定時運行はかなり効率が悪い。高松タクシー協会と</p>

しては、区域運行を継続して進めていくべきだと考えている。事業者からも、空車便数が多いこともあり、運転手のモチベーションが低下していると伺っている。本来は、注文された需要に対して、しっかり供給を行っていくことが望ましいのではないかと考える。

(部会長)

定時運行については、空車で走らせることも多く、無駄な運行もあるということで、課題が多いということだが、それについて何かご意見はあるか。

(副部会長)

定時運行の実績が落ちているとのことだが、一方、事業者への聞き取りによると、パターン2では、午前中及び夕方は車両が足りていないとのことであり、移動のニーズはあるのではないかと印象を受けた。ニーズはあるが、それに合った運行が出来ていないため、利用実績が上がらないのではないかと。例えば、今回、聞き取りは事業者のみであるが、利用者の方がどのように思っているかも聞き取りをされてはどうか。実際に利用しているのが、1か月で30人、40人くらいとあるが、意見を聞くことで、区域運行の時間の拡大といったことも含めた検討の役に立つのではないかと。

(事務局)

現状、利用者からのアンケートは実施していない。一定の移動需要はあるのではないかと考えている。その需要に対して、乗合事業である定時運行が合っていないということであれば、検討していく必要がある。

(部会長)

需要に関しては、この運行エリア内に限られたものではないのかもしれない。

利用者数は、1か月に30人から40人あるということで間違いはないか。

(事務局)

1か月の延べ人数であり、実際の利用者数については正確には把握は出来ていない。

(部会長)

交通に関しては、財源もリソースも限られている状況ではあるが、利用者にとって最適なものとするためには、様々な観点から議論をし、問題を洗い出していくことが大事であると考えている。

(委員)

高松タクシー協会からは補足として、区域運行には、電話による事前予約が必要であるが、PRがあまりできていないと考えている。今後、継続していくためには、利用者が使いやすいものにしなければいけないので、即時に予約できるように検討していくことが必要である。

供給面については、保有台数が10台前後の小規模事業者においては、台数が少ない中で、朝夕の繁忙である時間帯にバタクスをあてることは確かに負担である。選定事業者についても、このエリアに限らず、周辺の比較的、保有台数が多い事業者を選定することも併せて検討することも必要となるかもしれない。

(部会長)

前日までの電話予約が利用のしづらさに繋がっているかもしれないが、一方、すぐに呼べるとなると、エリアを除けば、それは普通のタクシーと変わらないということになるが、これが、可能なのかということも検討した上で、今後どのようなサービスが適正なのか考えていく必要がある。

周知に関しては、これまで報道等ではされてきたが、それでも利用者が減っているということは、効果が薄れてきているように思う。このサービスについて、利用者への周知も検討していく必要がある。

(委員)

朝夕に車両が不足している中、パターン2で運行するとなると、既存の利用者がバタクスに流れるとあるが、バタクスの利用の上限等は考えているのか。利用人数に制限を設ければ、バタクスに利用者が流れることはないのではないのか。

また、タクシー配車アプリがあるが、その中でバタクスを予約できる仕組みにすれば、これから利用する方にもバタクスが選択肢の一つとなることが出来るのではないのか。前日までの電話予約が必要となると、予定が決まっている人しか使えないこととなり、融通が利かないのではないのか。周知に関しては、テレビのニュース等でも、どのように利用するのかわからない人が多いのではないのか。アプリのPRにもなるのではないのか。

(事務局)

バタクスは、現状、上限は設けていない。この時間帯に設定している理由としては、比較的タクシーが稼働しやすい時間帯も踏まえて、上限は設けていないのが現状である。

アプリがバタクスを予約できる機能を追加することについては、高松市も、今年度予算において、アプリの改修をしていく予定である。どのような機能にするかについては、並行して検討していくものであり、詳細はまだ決まっていない。アプリにこの機能が追加されれば、バタクスに関心を持って利用してもらえないのではないかと考えている。

(委員)

アプリに追加されて、利用者が増えた場合、事業者側が割に合わないということが起こるようになると思う。そういった場合、アプリに利用できる台数が表示されれば、利用者が他の利用も含めて選択ができるようになるのではないのか。

(事務局)

いただいたご意見を参考に、今後、制度や機能を検討してまいりたい。

### (3) レンタサイクル事業の見直しに向けた実証事業の実施について

事務局から説明(資料2)

(部会長)

このレンタサイクル事業は、非常に安価で、リサイクル自転車もよく整備されている。200円という料金も安価であるので、収支が合っていないという理由であるなら、仕方ないと思う。高松市のレンタサイクル事業は放置自転車対策でもあったかと思うが、そういった施策の目的が、一定程度、達成されたということであり、見直しについては仕方ないと思う。また、実証においては、この料金体系については、他県のシェアサイクル事業などを参考に、ニーズの調査等を検討していくのではないかとと思う。今回、電動アシストになり、サービスとしては向上する。電動アシスト付き自転車50台と従来の自転車の需要についても、併せて、比較できるような実証になると、今後の議論の方向性の参考になるのではないのか。

(副部会長)

安価で、県外から来た方にも使いやすい事業であるが、やはり採算の面とバッテリーの問題が

あり、今の形で継続していくのは厳しい面があることから、今回、電動アシスト付き自転車の導入となったように思う。今までの自転車と電動アシスト付き自転車になったことで、どのようなニーズの変化があるのか、既存の自転車からどのくらいが乗り換えるのか、元々の自転車の方にもニーズの変化が見られる可能性があると思う。そういったところを、この実証事業を通じて検討していただきたいと思う。特に高松駅周辺は、県立アリーナ、文理大学が出来、移動のニーズが増加しているので、渋滞対策という点においても、自転車で移動できる方には、利用していただきたいと思っている。結果が出れば、台数を増やすなど、取り組みを進めていってほしい。

(委員)

今回の実証事業について、電動アシスト付き自転車のサービスについては高松市では何社か参入しているが、利用料金の比較等はしているのか。電動アシスト付き自転車になるとバッテリーの充電等の費用が発生すると思うが、人件費等も含めてこの料金で続けていけるのか、データ等あれば教えていただきたい。

(事務局)

高松市に2社の民間事業者が参入している。

1社は1台借りて基本料金50円、15円/1分となっている。他1社は、220円/30分、高松市の実証事業では、200円/15分、2,000円/12時間 になっており、概ね似たような料金となっている。高松市の実証シェアサイクル事業は、小豆島で同じサービスを提供している事業を高松市に持ち込んでくる事業になる。高松市内でも、観光客の方等、こういったサービスに慣れている方も多く、高松市でやろうとしている実証事業は、ハローサイクリングのアプリのシステムを利用しており、すでに全国展開するプラットフォームであるため、需要も取り込みやすいと思う。バッテリーの交換、車両の再配置についても、この事業者が行ってくれることになっており、それも含めた料金となっている。実証事業なので、民間としてサービスとして成り立つのかということも、この実証事業の中で分析していくことになる。

(委員)

交通事業者の観点から質問したい。

高松市の活性化、経済効果というところでは、こういった事業を進めてほしいと思う。その反面、交通マナーについては懸念が出てくると思っている。このことについてはどのような対応を考えているのか。

(事務局)

いただいた意見を踏まえ、対応をしていきたいと考えている。

特に最近は電動キックボードを市内でも見かけるが、場合によっては交通ルールが守られていないように見受けられる。交通安全を管轄している部署や香川県警とも連携して、マナーが守られるよう取り組んでいきたい。

補足にはなるが、レンタサイクルや自転車サービスの展開については、基本的には公共交通のネットワークの中に、

サービスが組み込まれるように考えていきたいと考えている。公共交通を利用された方がより便利になるような場所やサービスの提供について、自転車単体で考えるのではなく、公共交通事業者と共に、市内のネットワークを構築していくのかという観点で取り組んでいきたい。

(部会長)

高松市の自転車事業については、非常に良い取り組みだと思うので、交通マナー等の改善にも取り組んでもらいたい。

また、二次交通のネットワークに関しても、二次交通を最適に繋ぎ合わせていく中で、自転車というものを、しっかりと位置付けていこうという観点でも、この協議会で意見を出してもらいたい。

(委員)

自転車のヘルメット着用について、今後は義務付けられると思うが、そのことについてどのように考えているか。

(事務局)

高松市のレンタサイクル事業においては、現在ヘルメットの貸し出しについての対応は出来ていない状況である。自転車を貸し付ける側が準備することになるが、消毒等の衛生面、保管場所、また再配置をどのようにするか等の検討は必要になる等の課題があり、まだ実現は出来ていない状況である。おそらく他の事業者も同じ課題を抱えているのではないかと思うが、引き続き検討してまいりたい。

(部会長)

高松市以外の他の事業者においても、これについては非常に大きな課題を抱えていると思う。今後も他の状況を注視しながら検討していただきたい。

(部会長)

他に、ご意見・ご質問はあるか。

・・・意見なし

以 上